

＜総合的な学習の時間＞

指導事例一覧

番号	言語活動の特色	単元名	分類	活動
1	自らの課題について研究した結果を他者に分かりやすく表現し伝える事例	研究と発表	(1)イ(i) (ii)	⑥
2	ウェビングマップを使って課題を明らかにしていく事例	探究基礎「序」	(1)イ(i) (ii)	⑥
3	複数の新聞を比較しながら読み取り、情報を収集する事例	地域を知る・自己を知る	(1)ア(ii)	④
4	立場や論点を明確にしてディベートを行う事例	富士山学におけるディベート	(1)イ(i) (ii)	⑥
5	フィッシュボーンの活用によって論理的な文章を書く事例	探究基礎「序」	(1)イ(i) (ii)	④⑥
6	相手の立場に立った4つの視点で発表の質を高める事例	課題研究	(1)イ(i) (ii)	⑥

＜分類、活動の見方＞

分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの（詳細は第2章7～9ページ参照）

- (1) 知的活動（論理や思考）に関すること
 - ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
 - (i) 事実を正確に理解すること
 - (ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること
 - イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
 - (i) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること
 - (ii) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
- (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること
 - ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること
 - イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動（詳細は第1章5～6ページ参照）

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

【学習活動の概要】

1 単元名 研究と発表			
2 単元の目標 1年間に渡る探究型の学習活動を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育む。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自ら考え設定した課題に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、発表を通して集団の考えを展させ、自分の考えを深めようとしている。	自ら設定した課題について、解決に必要な知識や情報を収集し、科学的、論理的に考察し、的確にかつ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	自ら設定した課題の解決に関わる諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	自ら設定した課題を理解し、その解決に向けた知識を身に付けている。
4 単元の概要と言語活動 生徒自らの興味・関心で自由に学習のテーマを設定し、設定したテーマ内容により、「教育人間ゼミ」、「メディア芸術ゼミ」、「経済経営ゼミ」、「環境生命ゼミ」、「システム工学ゼミ」の5つのゼミナールに各自所属して研究と発表に取り組む。言語活動としては、学校独自に開発した『研究ノート』をテキストとして活用し、課題発見の方法・テーマ決定の方法、論文の書き方などの研究への取り組み方や進め方に関する活動やディベートを行う。また、生徒各自のテーマに基づき、探究活動はゼミナール形式で分野ごとにグループを形成して調査・研究を進め、その結果をゼミナールごとに発表しまとめを行う。			
5 単元の指導計画(全48時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (24)	○研究基礎	・収集した情報の考察や分析を行い、活用に向けて判断し論述するとともに、情報の整理などを工夫する。	
第2次 (16)	○ゼミ研究	・コンピュータを活用して、統計資料や視覚資料を加工し、発表時間を勘案してスライド枚数や構成を検討するように指導する。	
第3次 (8)	○ゼミ研究発表	・発表後に自らの取組を振り返るとともに他者の意見や感想なども聴取し改善のポイントを整理し発表するように指導する。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

総合的な学習の時間の第3の2（2）の内容の取扱いにおいて、次の事項に配慮するとしている。

（2）問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

本事例は、探究のプロセスの中に適切に言語活動を位置付け、一人一人の生徒の学習の深化を目指したものである。

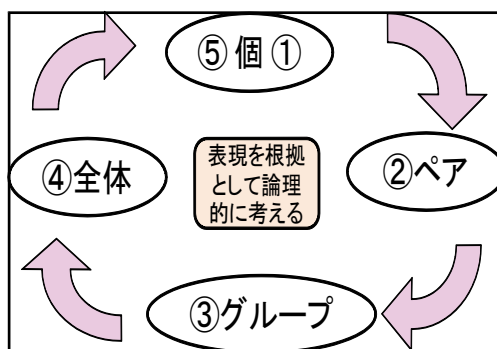
【言語活動の充実の工夫】 ～自らの課題について研究した結果を他者に分かりやすく表現し伝える～

本事例では、総合的な学習の時間を第1学年で2単位、第2学年で1単位で展開している。第2学年では、単元展開の事例の取組を継続・発展し、2学期に各ゼミで生徒一人一人が発表を行い、そこで選考された生徒が全体での研究発表会の場で発表する。

本事例における言語活動では、右の①～⑤の流れで行う。

- ① 一人一人が文章を読み、複数の情報から論理的に思考し判断することを通して、課題について自らの考えをもつ
- ② ディベートやブックトーク等のペアワークの活動機会を生かし表現方法を工夫して、自ら考えたことを他者に説明し合う
- ③ 各ゼミあるいはゼミ内での活動グループで話し合い、発表する（右上写真）
- ④ グループごとに全体場で発表する（右下写真）
- ⑤ 発表等の活動後、一人一人が成果や反省をまとめる

右図のように、課題探究に取り組むプロセスで、個から様々な集団、そしてまた個へと多様な言語活動の取組を連続で展開することで、生徒の論理的な思考力や判断力、表現力等の質的向上が図れるよう、教師がきめ細かく観察し適切に指導していく。また、生徒間交流、例えば1年生と2年生の交流を行うことで、論理的な思考、スライドの構成、発表時の態度や表現の工夫等、他者に的確で分かりやすく表現し伝える力に触れるようにすることなども重要である。



総合的な学習の時間ー2 ウェビングマップを使って課題を明らかにしていく事例

【学習活動の概要】

1 単元名 探究基礎「序」			
2 単元の目標 テーマから課題を発見し、情報を収集、まとめ、発表するという探究活動を通して、探究の基礎的な技法を身に付け、今後の活動に活用していこうとする。			
3 単元の評価規準			
よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、協同的に取り組む態度	自己の在り方生き方
情報を整理しながら新しい課題を設定している。	シンキングツールを使って、集めた情報を分析している。	異なる考えを受け入れ、互いの違いを尊重しながら話し合っている。	探究した課題について、自己の生き方と関連付けて課題をまとめている。
4 単元の概要と言語活動 この単元では、一連の問題の解決や探究活動を経験することで、その後の探究的な学習が適切に行われることを目指すものである。個人テーマを設定し、その後グループでの探究へと活動を広げ、発表へと展開していく。それぞれの場面で、探究のための具体的な技法を獲得したり、協同的に学ぶことを経験したりして、学習の質を高めていくようにする。最後は、学習の振り返りを通して、成果を実感できるようにしていく。			
5 単元の指導計画(全35時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (10)	○個人テーマ探究期 ・ブレインストーミング・KJ法的手法によるクラステーマの探究 ・ウェビングによる個人テーマの決定 ・個人シートの作成 ・班内での個人発表	・自由奔放・量を求む・便乗発展 ・批判厳禁のルールにのっとり、意見の出しやすい雰囲気作りを行う。	
第2次 (10)	○グループでのテーマ探究期 ・グループ活動を成功させるためのダイヤモンドランキングの活用 ・グループでのシート作成	・分かりやすい個人シート、グループシートにすることを目指して、グループで意見を出し合いながら作成するようにする。	
第3次 (10)	○発表探究期 ・ブレインストーミング・KJ法的手法により発表する方法や内容の検討 ・発表の準備 ・探究学習の発表会	・調べたことを他者に効果的に伝えることを視点として、発表方法を検討していくようにする。	
第4次 (5)	○前期の振り返り ・フィッシュボーンで活動内容を整理し、自己の成長を作文としてまとめる。	・一人一人が文章を書くことによって、じっくりと学習活動を振り返る場を用意する。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

総合的な学習の時間の第3の2(2)の内容の取扱いにおいて、次の事項に配慮するとしている。

(2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

本事例では、ウェビングをグループで行うことで、他者と協同で与えられたテーマを広げ、個人の興味に合った課題を発見するようにしている。

【言語活動の充実の工夫】

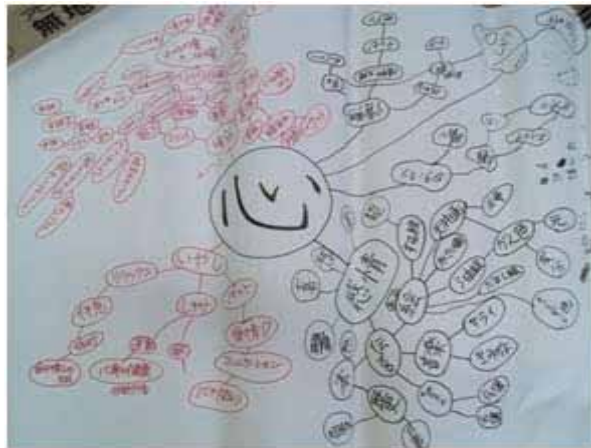
～ウェビングマップを使って課題を明らかにしていく～

○ウェビングの活用

前時に、クラステーマでブレインストーミングやKJ法的手法によるグルーピングを行い、10個のグループテーマを決定した。本時では、各3～4人のグループごとにグループテーマを用意し、ウェビングを実施した。

まず、ウェビングの見本を黒板に貼り、方法を確認した。

一つの言葉から一つの言葉へと、団子状に言葉をつなげていくのではなく、放射線状に思い付く言葉を広げていくよう指導した。



また、自由奔放・量を求める・便乗発展・批判厳禁のルールを確認し、積極的に意見を出すよう助言した。まず、グループで模造紙を囲み、その中心にグループテーマを記入し、5分間のウェビングを実施した。黙々と作業しているグループには、声を出しながら書いていくようアドバイスした。コツがつかめず、上手く発想が広がっていかないグループには、教師も一緒に参加し言葉を加えた。次に、他のグループの模造紙を見に行くよう指示した。休憩後、さらに3分間のウェビングを実施した。

終了後、模造紙全体をよく眺め、どのように言葉が膨らんでいったかをグループで話し合った。ウェビングをしたことで気付いたことや、新しい発見、意外だった言葉などを整理し、課題の候補として模造紙に記入した。模造紙は黒板に貼り、各グループのリーダーが発表を行った。

「たくさん書いてある。うちのグループは少ないね」

「新しい疑問が生まれてきた」

「広がった言葉の中に気になることが出てきた」

などの声が上がった。発表の技能を向上するための参考になるように、一つの発表が終了するごとに、教師が発表方法のよかった点を評価した。相手に分かりやすく発表するために、声の大きさに気を付けること、目線を意識し姿勢を正すこと、内容が伝わるような表現方法を工夫すること、時間設定や相互交流を大切にすることなどを指導した。また、聞く側も、全員が耳を傾け、発表しやすい雰囲気作りができるよう指導した総合的な学習の時間は、他者の意見から自らの考えを発展させ、生徒同士の学び合いの場が生まれることを生徒とともに確認した。

最後に、ウェビングマップの中から、これから自分が探究していきたい興味のあるものに印を付け、これを個人テーマとし、調べ学習を行い、個人シートを作成していくこととした。

総合的な学習の時間－3 複数の新聞を比較しながら読み取り，情報を収集する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 地域を知る・自己を知る		
2 単元の目標 社会に生きるための一歩として，講演会やN I Eを利用した探究活動，体験活動，課題探究とその発表会などを通して，地域と地域に生きる自分について認識を深め，学び方やものの見方を身に付け，自己の考えや意見を発信することができるようにする。		
3 単元の評価規準		
課題設定・解決の能力	発表の能力	社会参画の能力
社会的な事柄に目を向け，自己と社会との関わりを認識し，適切な課題を設定して解決している。	課題について自分自身の考えをまとめ，それを表現し論理的に発表している。	主体的に学ぶ姿勢をもち，学習課題について責任感をもって取り組んでいる。
4 単元の概要と言語活動 3カ年を通して「社会に生きる」をテーマにして学習活動を行う。単元構成は，1年次「地域を知る・自己を知る」，2年次「日本を知る・世界を知る」，3年次「自己実現への課題探究」である。1年次の学習テーマとなる「地域・自己」では，高校の所在する地域を生徒自身が探究していく中で，地域の高校生としての誇りと自己有用感をもち，次年度以降さらに大きく社会に目を向けていくとともに具体的な将来像につなげることをねらい，学習活動を展開していく。		
5 単元の指導計画(全35時間)		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次 (10)	○「地域を知る」ことについて，班別の探究テーマの設定。地域の外部講師によるテーマ別講演会，調べ学習，レポート作成，HR発表会，まとめの実施。	・探究活動の基本となる文章による分析，まとめ，発表を丁寧に行う。班別に行うことにより，話し合いも促していく。
第2次 (15)	○「自己を知る」講座開講。職業への理解を深めるための職種別の職業ガイダンス，職業疑似体験，希望に添って大学・短大・専門学校又は地域の企業へ1日体験学習，体験学習についてのレポート作成，「自己を知る」全体のまとめの実施。	・自己を見つめて，どこで1日体験学習を行うか検討する場を設ける。 ・視点を定めて体験学習後のレポートを作成する時間を用意する。
第3次 (5)	○「N I E探究活動」。新聞活用に関する外部講師の講演会，新聞を読んで題材の選定，発表の仕方の学習，発表。	・新聞を数紙読み比べて，興味のある記事を探し分析したり，聞き手に分かりやすいように工夫して発表したりするよう指導する。
第4次 (5)	○「社会とのつながりを知る」。卒業生及びPTAによる講話，まとめ，1年間の振り返り。	・1年間の振り返りを行い，文章で学習の成果をまとめるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

総合的な学習の時間の第3の2（2）の内容の取扱いにおいて、次の事項に配慮するとしている。

（2）問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。単元の中で、収集した情報の分析、まとめ、発表を繰り返して行うことで思考力・判断力・表現力の向上が期待できる。

新聞は社会との接点であり、1年生が目標としている「社会を知る」には絶好の素材である。メディアリテラシーは、今の時代には喫緊の能力であり、これからの社会を生きる高校生は様々なメディアに触れる必要がある。また、本事例のような複数の新聞の読み比べにより、事実の捉え方の違いなどを知り、社会の構成員として、健全な批判力を育成することにもつながる。

【言語活動の充実の工夫】 ～複数の新聞を比較しながら読み取り、情報を収集する～

この学習活動の概要は、複数の新聞の読み比べから各自の興味関心に応じた新聞記事を探し、文章による分析、まとめ、発表を行うものである。学習の流れは次の①～⑤である。

- ①NIEアドバイザーを招き新聞の活用方法などについて、講演会を行う
- ②新聞を読み、興味関心をもった記事を選び、複数の新聞の記事を比較し、シートにまとめる
- ③グループ内で比較シートを検討し、グループで取り上げる記事を決める
- ④担当教師から発表の仕方の説明を受け、他者に分かりやすい工夫のある発表方法を準備する
- ⑤発表（記事を模造紙に貼り、グループ全員で発表）をする

学習の流れの中で生徒に次のような成果が見られた。まず、アドバイザーの講演により、新聞に対する親近感を抱き、新聞を毎日読もうとする意欲が高まった。

その後、複数の新聞の読み比べで、同じ内容でも新聞によって扱い方に違いがあることを知

った。右のシートは「素粒子ニュートリノ」の記事の読み比べであるが、新聞によって事実だけでなく専門家の解説のあるもの、測定方法や測定結果の誤差も載せてあるものなどを生徒は示し、そのことから「定説を覆すような発見は、もっと検証を重ねるべきではないか」と感想に記している。これは1紙のみの読解では出てこない感想であろう。

新聞名	読んだ新聞 1面	読んだ新聞 3面記事	毎日新聞	朝日新聞	山陽新聞
読山	より深い 素粒子観測	国際空の観測 探るかぜ 元より深い素粒子観測	元より深い観測	元より深い素粒子観測 2015年10月25日	元より深い素粒子観測 2015年10月25日
解説	素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。	素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。	素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。	素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。	素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。素粒子の衝突は、素粒子の性質を調べるには、加速器で衝突させる必要がある。
比較	元より深い素粒子観測	元より深い素粒子観測	元より深い素粒子観測	元より深い素粒子観測	元より深い素粒子観測

さらにグループ内でシートの比較検討をし、発表するものを決め、分かりやすさを工夫しながら発表の準備、発表（右写真）を行った。互いのシートを比較し、グループの代表を決めることで、評価規準の「課題について自分自身の考えをまとめ、それを表現し論理的に発表している」姿を実現することを目指した。



総合的な
学習の
時間

総合的な学習の時間－４ 立場や論点を明確にしてディベートを行う事例

【学習活動の概要】

1 単元名 富士山学におけるディベート			
2 単元の目標 「富士山学」の一環としてのディベート活動及びその準備を通して、地域社会や環境保全に関心をもち、他者と協同して課題解決に取り組む態度を養い、根拠や事例等を示して論理的に自分の考えを表現することができるようにする。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地域社会や環境保全に関心をもち、ディベートやその準備に意欲的に取り組もうとしている。	相手の主張を理解し、自らの立場に添う形で情報を取捨選択し、根拠や事例を提示して論理的に自分の考えを述べている。	ルールに基づき、論理的にディベートを進めている。	課題に対して様々な情報や知識を収集・整理・分析し、自らの考えを構築している。
4 単元の概要と言語活動 地域の象徴である富士山を、様々な観点から捉えて総合的に学ぶことを「富士山学」と名付けた。富士山に関わる様々な研究テーマを、生徒が自ら課題を設定し、探究活動を行うことにより、主体的に学ぶ力とともに地域社会や環境保全に関心をもち、地域を愛する心を育てていくことを目指して単元を構成した。言語活動としては、富士山に関する探究を支えるディベートを中心として行う。			
5 単元の指導計画(全19時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	○教師ディベートをモデルとして実施する。	・教師ディベートで論理的な組立てを示範する。	
第2次 (6)	○提示されたテーマでディベートを行う ・立論および反駁の準備をする。 ・ディベート1回目を実施する。	・論理的であるか、根拠が明確にに着目しながら準備シートに自論を記述するように指導する。 ・審査員はジャッジ用紙に評価結果を記録するように指導する。	
第3次 (8)	○富士山に関する課題を捉えたテーマを設定しディベートを行う。 ・テーマ設定をし、肯否の立場を決める。 ・討論根拠のため、校外調査を実施する。 ・根拠を基に立論の文章化をする。 ・ディベート2回目を実施する。	・テーマ設定の際にグループディスカッションを行う。 ・校内での調査(文献、PC)と校外での調査活動(アンケート等)の両面から根拠を提示し、論理的に文章化するように指導する。 ・展開に応じて質疑や反駁をグループで協同して構築し発言をするように指導する。	
第4次 (3)	○ディベートを振り返ってまとめる。	・富士山から発展し、地域及び環境保全に視野を広げる。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

総合的な学習の時間の第3の2(2)と(3)の内容の取扱いにおいて、次の事項に配慮している。

- (2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
- (3) (前略) 発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

本事例では、ディベートを実施することにより、他者と協同して問題を解決しようとする姿勢、言語により問題を分析し、まとめ、表現する力を養うことを目的とした。

【言語活動の充実の工夫】 ～立場や論点を明確にしてディベートを行う～

このディベートは競技ディベートの方法を踏襲しつつ、以下に示すように授業時間内にクラス全員で実施できるよう、独自に開発したディベートの方式で実施した。

○第1回ディベート→1時間で①②のディベートを実施。翌週③のディベートと振り返り。

- ・ HRを6～7人の6班(A班・B班・C班・D班・E班・F班)に分け、ディベートを実施。
- ・ テーマは教員側で次の①～③を指定した。「①消費税を上げるべきである ②日本は救急車の利用を有料化すべきである ③選挙権を18歳以上に認めるべきである」

① のテーマ…肯定側：A班、否定側：B班、審判：C班・D班・E班・F班

② のテーマ…肯定側：C班、否定側：D班、審判：A班・B班・E班・F班

③ のテーマ…肯定側：E班、否定側：F班、審判：A班・B班・C班・D班

○第2回ディベート→ディベートの時間設定は第1回と同様。

- ・ テーマは、富士山・富士北麓地域に関わるものとし、生徒が検討した結果、次の④～⑥に決定した。「④富士登山に入山税を徴収すべきである ⑤富士山5合目までに電車を通すべきである(車の乗り入れ禁止) ⑥富士五湖の花火大会は存続すべきである」

*班の分担は第1回の肯定側と否定側を逆にした。

④ のテーマ…肯定側：B班、否定側：A班、審判：C班・D班・E班・F班

⑤ のテーマ…肯定側：D班、否定側：C班、審判：A班・B班・E班・F班

⑥ のテーマ…肯定側：F班、否定側：E班、審判：A班・B班・C班・D班

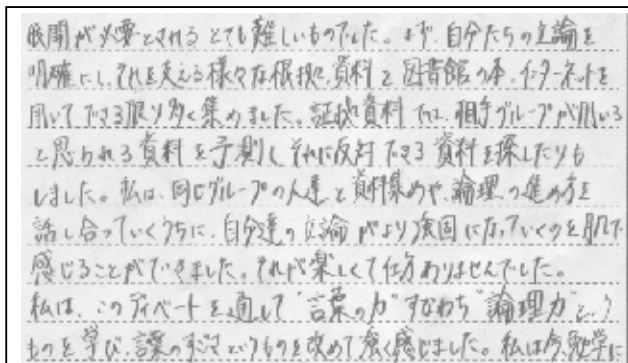
●言語活動の充実のための留意点

1 根拠資料の収集のため、調査を重視する。その際、文献やインターネットでの調査とともに、地域の人へのインタビューなど校外の調査を必ず行うこととした。

2 事前に調査した根拠を基に、立論と予想される反駁について各自が文章化し、準備シートに記述した。

3 相手の主張をしっかりと聞いた上で自分の立場の論を進めていくことの重要性を意識した。

4 グループ内のコミュニケーションを重視した。



総合的な学習の時間ー5 フィッシュボーンの利用によって論理的文章を書く事例

【学習活動の概要】

1 単元名 探究基礎「序」			
2 単元の目標 テーマから課題を発見し、情報を収集、まとめ、発表するという探究活動を通して、探究の基礎的な技法を身に付け、今後の活動に活用していこうとする。			
3 単元の評価規準			
よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、協同的に取り組む態度	自己の在り方生き方
情報を整理しながら新しい課題を設定している。	シンキングツールを使って、集めた情報を分析している。	異なる考えを受け入れ、互いの違いを尊重しながら話し合っている。	探究した課題について、自己の生き方と関連付けて課題をまとめている。
4 単元の概要と言語活動 この単元では、一連の問題の解決や探究活動を経験することで、その後の探究的な学習が適切に行われることを目指すものである。個人テーマを設定し、その後グループでの探究へと活動を広げ、発表へと展開していく。それぞれの場面で、探究のための具体的な技法を獲得したり、協同的に学ぶことを経験したりして、学習の質を高めていくようにする。最後は、学習の振り返りを通して、成果を実感できるようにしていく。			
5 単元の指導計画(全35時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (10)	○個人テーマ探究期 ・ブレインストーミング・KJ法的手法によるクラステーマの探究 ・ウェビングによる個人テーマの決定 ・個人シートの作成 ・班内での個人発表	・自由奔放・量を求む・便乗発展 ・批判厳禁のルールにのっとり、意見の出しやすい雰囲気作りを行う。	
第2次 (10)	○グループでのテーマ探究期 ・グループ活動を成功させるためにダイヤモンドランキングの活用 ・グループでのシート作成	・分かりやすい個人シート、グループシートにすることを目指して、グループで意見を出し合いながら作成するようにする。	
第3次 (10)	○発表探究期 ・ブレインストーミング・KJ法的手法による発表する方法や内容の検討 ・発表の準備 ・探究学習の発表会	・調べたことを他者に効果的に伝えることを視点として、発表方法を検討していくようにする。	
第4次 (5)	○前期の振り返り ・フィッシュボーンで活動内容を整理し、自己の成長を作文としてまとめる。	・一人一人が文章を書くことによってじっくりと学習活動を振り返る場を用意する。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

総合的な学習の時間の第3の2（2）の内容の取扱いにおいて、次の事項に配慮するとしている。

（2）問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

本事例では、フィッシュボーンを活用して、活動内容を整理し、活動を通して身に付いた力などについて、論理的な文章で表現することを行った。

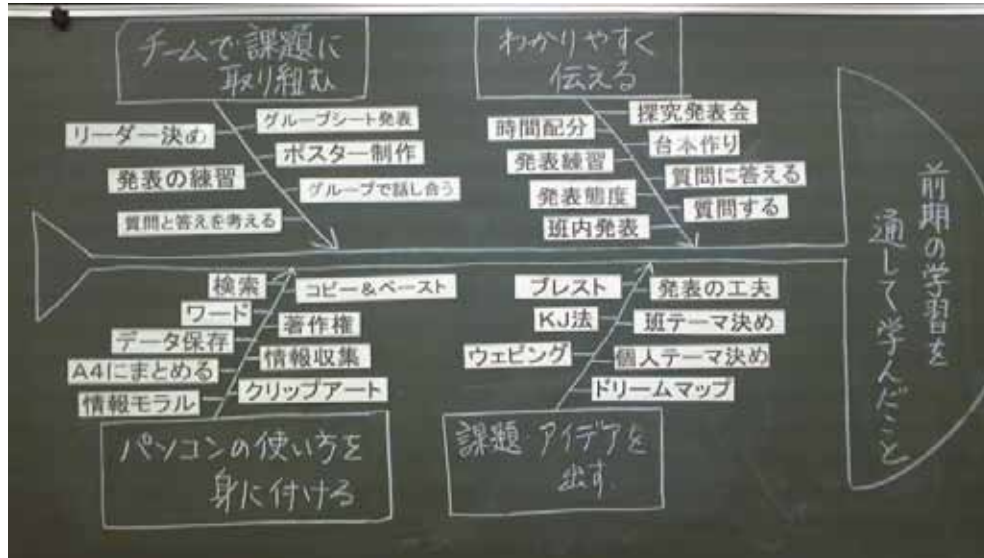
【言語活動の充実の工夫】～フィッシュボーンの活用によって論理的な文章を書く～

学習活動を振り返る中で、「探究発表会までの前期の活動で、どんなことをやってきたかな」と生徒に問いかけた。生徒は、印象に残った活動を発表した。発表に出てきた活動内容を、黒板のフィッシュボーン図に貼り付け、内容に共通点があると思われる項目をグルーピングしていく中で、それぞれのグループの共通点を見付けタイトルを付けていった。

その後、フィッシュボーンが記入されたプリントを配布し、各自で活動をメモしていくようにした。活動の中で、どのようなことに悩み、どのように乗り越えたのか、グループ活動の中でどのような会話が交わされたかなど、個々の具体的な体験を記入していくようにした。

それぞれがフィッシュボーン図で半年間の活動を振り返った後、活動前と活動後で、自分自身にどのような力が身に付いたと感じるかを、「前期の学習で身に付いたこと」というタイトルで作文に表していった。

作文の書き方は、フィッシュボーン図を活用し、第1段落で、「私が前期の学習を通して学んだことは〇〇である。」と、結論から書き出すことにした。第2段落以降は、その理由として、フィッシュボーン図の固まりを意識して表現していった。例えば、下図の場合は、第2段落「分かりやすく伝えること」、第3段落「課題やアイデアを出すこと」、第4段落「チームで課題に取り組むこと」、第5段落「パソコンの使い方を身に付けること」とした。そして、最後に、「これが、この学習で私が学んだことである。」と締めくくっていった。このように、フィッシュボーン図を活用することで階層性を意識した論理的で分かりやすい文章表現としていった。



総合的な
学習の
時間

総合的な学習の時間－6 相手の立場に立った4つの視点で発表の質を高める事例

【学習活動の概要】

1 単元名 課題研究			
2 単元の目標 アンケート調査やフィールドワーク調査による地域をテーマにした研究活動と成果発表を通して、地域への理解を深めるとともに、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解することができるようにする。			
3 単元の評価規準			
	表現力	計画実行	将来展望
	研究活動や研究成果を相手や目的に応じて構成や展開を工夫し発表している。	課題研究のテーマに対して内容が妥当であるかを検討しながら改善計画書を作成し、論文を修正している。	地域の将来を考え、地域の一員としての立場から、研究成果をまとめている。
			他者理解 プレゼンテーションの内容から発表者の考えを理解し、受け入れている。
4 単元の概要と取り上げる言語活動 地域住民等へのアンケートやフィールドワーク（観察調査やヒアリング調査）等による情報収集により、地域をテーマとした研究を深化させ、レポートとして整理し発表する学習活動を行う。 言語活動としては、アンケートやフィールドワークの準備や調査において、資料を作成し、他者に質問すること、調査結果をまとめ、発表することなどを行う。			
5 単元の指導計画(全35時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (13)	○アンケートとフィールドワークによる調査・研究1 ・研究対象に関する情報が、どこにあるのかを調べるためのアンケートやフィールドワーク(聞き込み)を行う。	・アンケートの作成は、対象者の立場に立って、分かりやすい表現を用い、聞きたいことが明確になっているかを明らかにする。 ・アンケートの項目や内容についての確認は、生徒同士の相互評価の機会を確保する。	
第2次 (13)	○アンケートとフィールドワークによる調査・研究2 ・データ収集のためのアンケート調査やフィールドワーク調査を行う。	・フィールドワークによる観察や聞き取り調査では、訪問先への立入や取材等の了解を得るために、手紙や電話、E-mailなど、相手に合わせた手段を用いて、事前に連絡を取るよう指導する。	
第3次 (9)	○研究のまとめ・発表 ・コンピュータを活用して、論文作成やプレゼンテーションを行う。	・発表に向けての準備は、表計算・ワープロ・画像処理などのコンピュータソフトを活用して作成した論文から、発表内容が分かりやすくなるように適切な図表やキーワードをプレゼンテーションソフトにまとめるよう指導する。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

総合的な学習の時間の第3の2（2）の内容の取扱いにおいて、次の事項に配慮するとしている。

（2）問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

本実践では、主に表現する学習活動において、視点を明確にすることでプレゼンテーションの質を高めていこうとすることを目指している。

【言語活動の充実の工夫】 ～相手の立場に立った4つの視点で発表の質を高める～

研究内容の報告の場として、ホームルームあるいは学年全体で学習成果を共有する場面が想定される。参加者全員の前で行うプレゼンテーションでは、発表の工夫をすると同時に、聞いている生徒にも主体的に関わらせることが重要である。そのためにも、プレゼンテーションの質を高めるポイントを明らかにすることが大切になる。

<発表・解説の4つのポイント>

- ①専門性
- ②エンターテイメント
- ③コミュニケーション
- ④ホスピタリティ



本指導事例における言語活動では、

- ① 研究の結論、自分の主張、他の生徒にはない専門性を明らかにする（専門性）
- ② 興味を引くために表現方法の工夫を考える（エンターテイメント）
- ③ 聞き手の思考を活性化させ、理解が深まるような発問を考える（コミュニケーション）
- ④ 相手の立場を考え、分かりやすい表現を選択する（ホスピタリティ）

というポイントを示して行っている。

発表する側には、「分かりやすさ」という視点から、「専門性」「エンターテイメント」「コミュニケーション」「ホスピタリティ」の4つのポイントを重視するようにする。

発表する生徒は、まず自分が発表する内容に対して、他の生徒が興味をもつように工夫し、また他の生徒が知らないような専門的な事柄を工夫して紹介することで、発表内容に対して期待感をもつことができるように発表する。さらに理解度を探るための発問などをして、双方向でのやり取りを成立するようにし、聞き手の思考が活性化することを心掛ける。専門性の高い事柄も分かりやすい言葉や表現を選び、図や表などを効果的に使い、相手の立場に立って、ホスピタリティの精神をもって発表に臨む必要がある。

聞いている側には、発表内容が分かりにくい点や興味をもてない点などに対し、改善につながる具体的な「よい指摘・助言」をしたり、自分の発表に生かしたりすることを目標とするなど、発表者と同様な視点をもって参加するようにしていく。そのためには、発表後の時間を十分確保して、交流したり助言し合ったり、自己評価したりして、発表の改善につなげることが大切である。